

研究スキルアップ支援セミナー

サイエンスイラストレーションのすすめ

ビジュアル化で 研究成果をアピール！

2024 2/8 Thu
17:00-19:00

Webinar_Webex



▲申込 締切:2/6Tue

Our Special Speaker

イラストの力を研究に活かすために



有賀 雅奈

ARIGA Kana

桜美林大学 リベラルアーツ学群 助教

Visualizing your research!

- 効率的な研究の可視化を目指して



井上 寛美

INOUE Hiromi

京都大学ヒト生物学高等研究拠点
(ASHBi)リサーチコーディネーター

効率よく魅力的な
科学イラストを作成するために



竹村 祥成

TAKEMURA Yoshinari

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

近年、グラフィカルアブストラクト（研究結果の要点を一つの図にまとめたもの）の提出を求めるジャーナル、学会が増えています。また効果的な研究費申請書の作成や学会発表、教材制作においても、審査員や聴衆にアピールするためのサイエンスイラストレーションの果たす役割は高まりつつあります。

本セミナーでは、サイエンスイラストレーションの位置づけ、重要性、利用可能なツールやサービスを知り、より効果的な研究成果発表、研究費獲得などのスキルを高めていただく機会として、3名の講師の方をお招きしました。

参加対象

次に所属する教職員と学生

- ・日本医科大学
- ・日本獣医生命科学大学
- ・全国ダイバーシティネットワーク
東京ブロック参画機関

主催：日本医科大学

問合せ：しあわせキャリア支援センター

☎ 03-3822-2131(ex5504)

✉ app-shien@nms.ac.jp

🌐 <https://one-health.jp/>

ビジュアル化で研究成果をアピール！サイエンスイラストレーションのすすめ 講師紹介と講演要旨

イラストの力を研究に活かすために



有賀 雅奈

ARIGA Kana

桜美林大学 リベラルアーツ学群 助教

博士(知識科学)。桜美林大学リベラルアーツ学群 助教。大学で生命科学を学び、大学院以降科学イラストを研究。日本学術振興会特別研究員、東北大学教育研究支援者を経て、東北大学にて申請書の概念図や資料制作を担う科学専門デザイナーのURAになる。その後メディカル専門デザイン会社である株式会社レーマンにて論文の図制作等を担当し、2021年より現職。現在は研究・教育をしつつ、企業や大学へのビジュアルアドバイジングを行う。

サイエンスイラストレーションは科学情報を伝える説明図のことで、特に医学・生命科学分野では活発に利用されています。情報をわかりやすくするだけでなく、関心を引いたり、説得したり、記憶に残りやすくなるなどの効果があり、申請書のポンチ絵やグラフィカルアブストラクト等、研究戦略を担うツールとしても重要です。一方、イラストは単に「あればいい」というわけではありません。この講演では、どのような時にどんなイラストが有効なのか、また作るにあたって考えるべきことは何か、考えるヒントをお話したいと思います。

Visualizing your research! - 効率的な研究の可視化を目指して

2004年徳島大学総合科学部卒業。2006年大阪大学医学研究科医科学修士課程終了。2006年-2012年理化学研究所 発生・再生科学総合研究センターにてテクニカルスタッフ。2013年-2014年カリフォルニア大学サンフランシスコ校にて、Assistant Specialist、2015年-2020年、同校にてLab manager/Associate Specialist。2020年11月より現職。



井上 寛美

INOUE Hiromi

京都大学ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) リサーチコーディネーター

2017年に登場したBioRenderをはじめ、科学に特化したイラストレーションツールが登場し、あっという間に世界中の研究者からの支持を得ました。トップジャーナルに掲載されている論文でも、このようなツールが使われているのをよく目にします。これらのツールでは、すでに科学に特化したアイコンやテンプレートが準備されており、それらを組み合わせることによって、容易に短時間でプロフェッショナルなイラスト作成を可能としています。本セミナーでは、なぜ科学イラストツールが、研究者に広く受け入れられたのかを考察し、実際に導入するメリットや注意点についてお話したいと思います。

効率よく魅力的な科学イラストを作成するために



竹村 祥成

TAKEMURA Yoshinari

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

ニューヨーク市立大学を卒業後、特許翻訳会社での勤務を経て、2013年にカクタス・コミュニケーションズ株式会社に入社。現在は日本の研究者と大学の認知度向上のためのソリューションを提案するインパクトサイエンス事業部でアカウント・マネージャーを務める。多国籍の制作チームと連携して、研究者および大学の広報担当者を支援する国際研究広報サービスを提供。

毎年膨大な数の研究論文が発表されるなか、読者の注意を引くために科学イラストの重要性が高まっています。科学イラストの活用は、文字だけでは伝わりづらい研究内容を簡潔に分かりやすく説明するだけでなく、多様な読者にとって研究がより身近になり、他の研究から際立たせる効果があります。研究者支援を行うカクタス・コミュニケーションズが提供する科学イラストツール「Mind the GRAPH」、研究広報サービス「Impact Science」の2つのサービスを中心に、効率よく魅力的な科学イラストを作成するためのポイント・導入のメリットを紹介します。